



バッハの森通信

第113号
2011年
10月20日発行

財団法人筑波バッハの森文化財団

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9

<http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699

e-mail: info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 (財)筑波バッハの森文化財団

再生したオルガン

建造したときの思いと共に

皆さん、喜んでください。バッハの森のオルガンが再生しました。去る3月11日の大地震で大破したオルガンの修復作業が9月5日に完了し、6ヶ月ぶりにアーレント・オルガンの美しい響きが戻ってきました。オルガンの大破から修復まで6ヶ月間、一部始終を目の当たりにしてきた私たちには、まるで奇跡が起こったような感じです。

地震で破損したパイプは、4メートルの高さから落下してペしゃんこに潰れた大きなフロント・パイプだけではありません。相当数のパイプがぶつかり合って破損しました。その後、頻繁に起こる余震で更に破損するのを恐れ、結局、約100本のパイプを抜き取って奏楽堂の床一面に並べておきましたが、それは、まるで被災地の瓦礫の山を思わせるような光景でした。

* * *

当然、震災後すぐ、このオルガンを建造したアーレント工房に修復を依頼しましたが、ユルゲンはすでに引退しており、後継者のヘンドリックからは、多忙を極めているので、しばらく日本に行く余裕がないと言われ、いつ修復できるかあてがえないまま途方に暮れていたのが2ヶ月前のことです。

ところが、その後、宮本とも子さんの紹介を受けて、米国ヴァージニア州の「テイラー・アンド・ブーディー・オルガン工房」に問い合わせたところ、早速、ロビー・ローソン技師から「アーレント・オルガンの修復作業ができることは大変光栄です」という好意的な返事をいただきました。そこで、急遽、交渉を始めてからわずか3週間のスピードで、修復作業の契約を交わすことができました。

工具の大きな荷物が3個とどいた後、8月30日の夕方に到着したローソン技師とクリス・ボノ技師は、翌31日から9月5日までの6日間で、大破したフロント・パイプを含むパイプの修理、調整と調律、耐震工事まで、すべての修復作業を完了しました。

修復されたオルガンの響きを聴いた人たちは、異口同音に、前より輝かしい音になったと言います。1989年にユルゲン・アーレントが建造して以来22年間、一度もオーバーホールをしなかったため、パイプにいささか埃りがたまっていたようです。要するに、修復と同時に“すす払い”をしていただいたわけです。ですから、私たちは今、震災前ではなく、22年前の建造当時のアーレント・オルガンの響きを聴いているのです。

* * *

修復作業が終わったとき、技師たちは、アーレント・オルガンの中でも、このオルガンは特に美しい響きをしているが、それだけではなく、見事に均整の取れた音栓配列だと感心していました。そこで、これは、バッハのコラール編曲を弾くためのオルガンが欲しいという、故・石田一子の希望にこたえて、ユルゲン・アーレントが建造したオーダーメイドのオルガンだ、という建造の経緯を話したところ、建造目的がはっきりしていたことが、最高のオルガンを生み出した理由であることが分かった、と大変喜んでいました。

今、私は、単に破損したオルガンが修復されたとは思っていません。一度死んだオルガンが再生した、という感慨を感じるからです。今度の出来事は、私たちに、このオルガンを遺した一子の思いの再生をうながしていると感じます。このオルガンには、建造から修復まで、多くの人たちの熱い思いが籠められているのです。

皆さん、バッハの森記念奏楽堂に再び響くようになったアーレント・オルガンの輝かしい響きと共に、思いを合わせ、声を合わせる喜びを、一緒に楽しみませんか。(石田友雄)

オルガンの修復

輝く響きが戻るまで

アーレント工房の了解

6月末に、3月11日の大地震で大破したオルガンの修復作業を依頼できるかどうか、米国ヴァージニア州の「テイラー・アンド・ブーディー・オルガン工房」に問い合わせました。早速、ロビー・ローソン技師から好意的な返事をいただきましたが、そのとき私はローソン氏に、それでもヘンドリック・アーレント氏の了解を得てから正式に依頼すると断り、ヘンドリックにメールしたところ、次のような返事が来ました。

2011年7月13日

石田様

お手紙、有り難うございました。

ここしばらくは、バッハの森のオルガンの修復をお引き受けできそうもなく申し訳ありません。しかし、ジョージ・テイラーさんは個人的に存じ上げていますし、テイラー・アンド・ブーディー工房が建造したオルガンには感心しています。私たちのオルガンと彼らのオルガンは同類です。ですから、アーレント・オルガンをテイラー・アンド・ブーディー工房が修復してくれることに何の支障もありません。

宜しくお伝えください。敬具

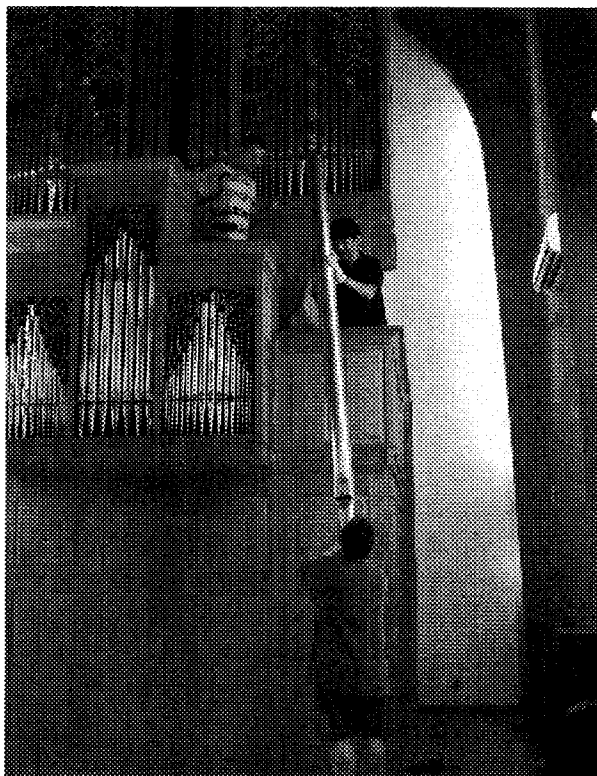
ヘンドリック・アーレント

その後、ローソン氏はヘンドリックと連絡をとり、アドバイスを受けたそうです。更にその後でヘンドリックは、大破したフロント・パイプを製作して送ろうかと、私に問い合わせてきました。しかし、修復作業が終わる9月5日までに間に合わないことが分かったので、結局、ローソン氏が修理しました。いずれにしても、今回の修復作業が、アーレント工房の全面的な了解の下に行われたことは、大変嬉しいことでした。

修復作業をサポートしたヴォランティア

それからローソン氏と私が、最初はほとんど毎日、その後、週に数回メールして話し合い、オルガンの破損状況を詳しく伝えた結果、7月25日までに修復計画がたてられ、契約書が作成されました。契約書には、作業項目、日程、条件、費用などが事細かく記載され、それによると、2人の技師の宿泊はバッハの森が負担し、食事は彼らの自己負担になっていました。

宿泊については、最初、バッハの森の2階のゲスト用の部屋を考えましたが、この暑さと湿気では、空調なしの2階で安眠できないと判断し、急遽、空調のある1階の会議室とセミナーホールに寝室を用意することにしました。食事については、バッハの森の周辺にほとんどレストランもスーパーもないので、契約を無視(?)して、バッハの森ですべて用意することとし、ヴォランティアを募ったところ、安西文子さん、笠間キヨ子さん、塚越多恵子さん、當眞容子さん、戸部慶子さん、別所香苗さん、本多和子さんたち7人の方々为名乗り出てくださいました。そこで、この方たちと寝室を整え、食事の調理当番をきめて、彼らの到着を待ちました。



修理したフロント・パイプの設置

8月30日夕方、宮本とも子さんが、一緒につくばセンターまで迎えに行ってくださいました。その後6日間、彼らは、美味しい家庭料理と快適な寝室の寝心地を満喫してくださったようです。その代わり、朝5時、6時から、夜は夕食後まで働きづめに働き、9月4日の夕方までに、修復、調整、調律、耐震工事まで完璧に終わっていました。4日の夕方に再び宮本とも子さんが来てくださり、修復されたオルガンの試奏をして、再び戻った素晴らしい響きに感激しておられました。

楽しかった交流

途中から、ローソン氏の友人の河内克彦氏が参加して手伝ってくださったほか、深谷律雄さんが金曜日、別所直樹・香苗夫妻が土曜日、比留間伸行・恵夫妻と英ちゃんが日曜日に陣中見舞いに来てくださいました。皆さん、修復作業に興味深く眺め、技師たちと楽しく話し合っていました。

4日までに修復作業は終わっていたので、5日の朝早々にバッハの森を引き払い、次の仕事が待っている横浜に向かうものと思っていたのですが、彼らはオルガンと奏楽堂、ロビーと寝室などの掃除を始めました。それも念入りに掃除をしていたので、終わったのは午後2時でした。この日の昼食は用意していなかったので少々慌てましたが、冷蔵庫に残っていたものを美味しく食べてくださいました。

最後に短時間、巻頭言に報告したような、このオルガンとバッハの森の成り立ちについて話したところ、大変興味を持って聞いてくださいました。結局、彼らは、4時過ぎに、この素晴らしいオルガンにまた会いに来る、と言って去っていきました。

その後、ローソンさんから、次のようなメールをいただきました。

2011年9月12日

石田先生

バッハの森のオルガンの修復を、テイラー・アンド・ブーディー工房にご依頼いただき有り難うございました。バッハの森にうかがい、しばらくの間と一緒に過ごして、この楽器が先生個人にとっても、バッハの森の皆様にとっても、どれほど大切なものであるかということと、私たちがこの修復作業をさせていただいたことがどれほど光栄なことか、ということがよく分かりました。クリス・ポノと私は、バッハの森での作業と滞在を大変楽しみ、再びこのような機会が与えられることを願っています。私た

ちがした修復作業、それに調整と調律によって、このオルガンが1989年に建造された時と同じように美しく歌うようになったことを願っています。

私たちがバッハの森に滞在している間、皆様が歓迎してくださったことに深く感謝いたします。どれほど私たちがいつも食事を楽しんだか、どうぞバッハの森のご婦人たちにお伝えください。 敬具

ロビー・ローソン

友人たちの連帯に感激

オルガンが大破した直後、ヘンドリック・アーレント氏にオルガンの破損状況を伝え、修復にかかる費用を見積もってもらったところ、技師2人で3週間、実費で20,000ユーロという概算をしてくれました。この概算に基づいて350万円の予算を立て、バッハの森の会員の皆さんにオルガン修復募金をお願いしたことは、4月20日に発行した『バッハの森通信』でお知らせしたとおりです。

その結果、9月末までの6ヶ月間に、95人の方々、1つの団体（ベテスタ姉妹会）、1つの募金コンサートから、計2,738,794円のオルガン修復募金が寄せられました。

募金コンサートは、ヤン・エルンストさんが、ドイツ、シュヴェリンで開いてくださったもので、そのことについて次のような連絡がありました。

2011年9月5日

友雄さん

しばらくご無沙汰しました。友雄さんもバッハの森の皆さんもお元気でしょうか。この間、恵さんがシュヴェリンに来てくださいました。ハナちゃんに初めて会えて、とても楽しく過ごしました。そして沢山お話しましたが、いろいろ大変なことがあっても、バッハの森が活動を続けておられることを知り、大変嬉しく思いました。

先週の水曜日に、去年、大怪我をしてから初めて大きなオルガン・コンサートを大聖堂で開き、バッハのトッカータ全4曲を演奏しました。このコンサートでバッハの森のアーレント・オルガン修復のための募金をしたところ、約850ユーロの寄付がありました。このお金を振り込むために、バッハの森の銀行口座を教えていただけませんか。あの類い希な楽器が良い状態に修復されることを心から願っています。あのオルガンに私は深い愛着を感じています。シュヴェリンから皆様にご挨拶を送ります。

ヤン

バッハの森の多数の友人たちが、短時日に、これほど多額の募金に参加してくださったことは、私の予想をはるかに越えていました。オルガン修復という、突然ふりかかった難題を、連帯して克服してくださった友人たちがこれほど大勢いたことに感激し、深く感謝しております。(石田友雄)

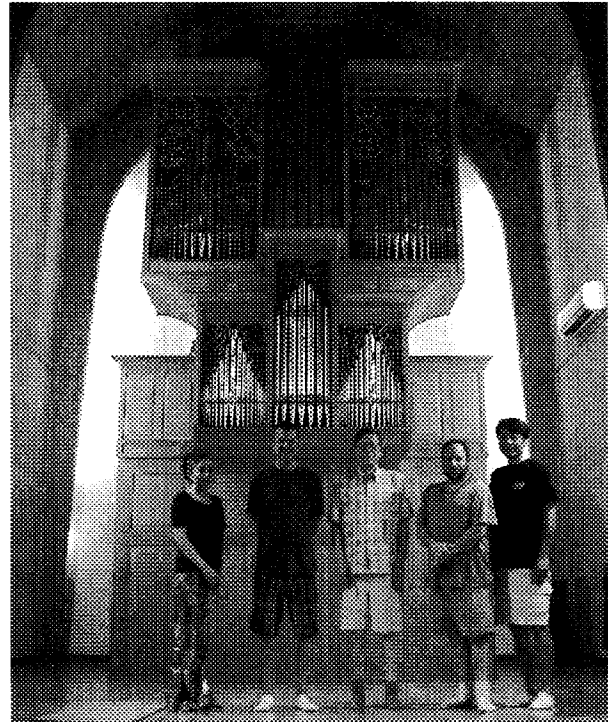
オルガン修復・収支決算

支 出

テイラー・アンド・ブーディー・オルガン工房支払い	2,926,353円 (37,000ドル)
耐震工事費	236,304円
食費と雑費	32,485円
合計	3,195,142円

収 入

オルガン修復募金	2,738,794円
建物維持寄付より	456,348円
合計	3,195,142円



オルガン修復の完了を記念して
左から、宮本とも子、ロビー・ローソン、
石田友雄、クリス・ポノ、河内克彦の皆さん

REPORT / リポート / 報告

私たち結婚しました

2011年5月、私たち別所直樹と香苗(旧姓：伊藤)は結婚いたしました。私たちがバッハの森で知り合ってから10年近くになりますが、このような仲間になったのは、ほんの2年前のことです。4月にバッハの森で皆さんに婚約を報告したところ、バッハの森の夏休み中にお祝いの会を催して下さるという、嬉しいお話をいただきました。

当初、結婚式は別に行い、バッハの森では、お茶会のような小規模な会をお願いしようと思っていたのですが、妊娠した香苗に負担になることを避けて、結婚式も兼ねた集いを開いていただくことにしました。バッハの森を知らない、親族や友人たちを招待するので、私たちが出会い、活動を続けているバッハの森がどのような所か紹介したいとお願したところ、友雄先生は、ご自身で作詞した(!) テーマソングまで用意して、素敵なプログラムを作成していただきました。また「私

たち2人で音楽をやりたい」とわがままを言ったところ、春のシーズンに学んだ、バッハのレチタティーヴォの替え歌を作ってくださいました。

当日、7月17日は、冷房機能もパンクするほどの大変な猛暑でしたが、バッハの森の皆さんや私たちの友人たちが早くから集まり、会場造りからご馳走まで、心の籠もった準備をしてくださいました。会には、親族、友人、バッハの森のメンバーなど、総勢78人もの方々が集まってくださり、遠くは京都から参加してくださった方もいました。

友雄先生と岩淵倫子さんがダブル司会で進行してくださった会は、テーマソング：「香苗と直樹の契りを祝い」の合唱で始まり、指輪交換、ケーキカット、立食形式のお茶会の後で、バッハの森でいつもしているように、私たちが参加して合唱やハンドベルを演奏しましたが、いつもと違う聴衆の前の演奏に一寸緊張しました。直樹がバスを歌い、香苗がポジティブ・オルガンで伴奏したレチタティーヴォは、一生懸命練習した甲斐があって、何とか失敗もせず無事終わることができたの

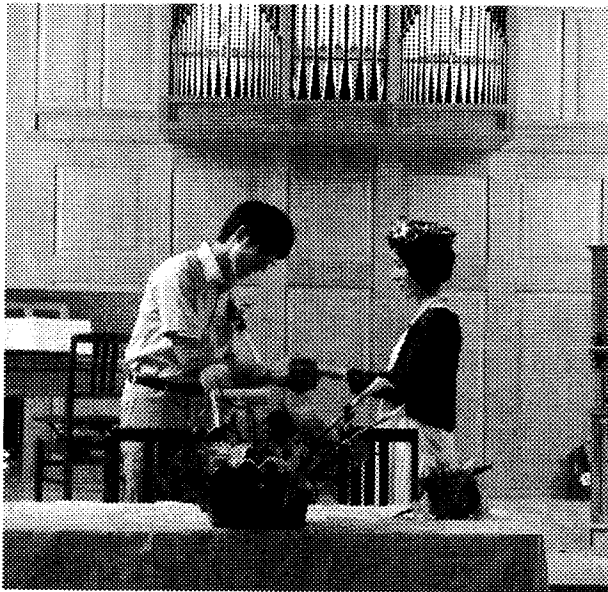
ではないでしょうか。

当日のサプライズは、3月11日の震災以降、全く沈黙していたアーレント・オルガンを、宮本とも子さんが演奏してくださったことです。3日前に、それまで全く弾けないと思っていたオルガンが、リュックポジティブだけなら何とかかなと分かったそうです。そこで、破損したパイプは抜き取られたままの状態、急遽、友雄先生と宮本さんが準備してくださったのです。全く予期していなかったオルガンの素敵な音を聴かせていただき、お祝いを盛り上げてくださったことに深く感謝しております。

唯一の心残りは、遠方から来てくださった友人や親族と会話が弾んでいる間に時が過ぎ、バッハの森の皆さんが準備してくださった美味しそうな手作りのお菓子を食べそびれてしまったことです。残念！

会場では、本当に多くの方々からお祝いの言葉をいただきました。とても嬉しく、大変感謝しております。9月初めに、アーレント・オルガンは完全に修復され、あの素晴らしい響きが戻り、バッハの森は新しいスタートを切りました。私たち2人も、これからの人生とバッハの森での活動に、新しいスタートを切りたいと願っています。皆様、今後とも宜しく願いいたします。

(別所直樹・香苗)



直樹と香苗の指輪交換

温かで和やかな一日

この春、別所直樹さんと伊藤香苗さんが結婚されたので、去る7月17日に、バッハの森でお祝いの集いを開きました。お二人とは、バッハの森で長い間、合唱やハンドベルで一緒にさせていただいてきた私にとっては、格別に嬉しい出来事でした。そこで、お祝いの集いのまとめ役と、友雄先生とご一緒の集いの司会を、立候補して務めさせていただきました。

お祝いの集いは、テーマソング：「香苗と直樹の契りを祝い」で幕を開けました。元歌は誕生日をお祝いするメキシコ民謡だそうです。友雄先生がその替え歌を作ってくださいました。

香苗と直樹の契りを祝い

みんなで喜び集まりました。

楽しいときのなほに從い

歌を送ります心を籠めて。

新しいうちに愛の光が

絶えずいつまでも輝くように。

この味わい深い歌詞で、お二人の門出をお祝いできる喜びを感じながら楽しく歌うことができました。

指輪交換、ケーキカット、乾杯と歓談、などの後で、バッハの森のみんなで、別所君も香苗さんも入って合唱やハンドベルをしました。何と言っても、3月の震災で壊れて以来、久しく聴くことができなかったアーレント・オルガンを、一部のパイプしか使用できない状態でしたが、弾いていただけたのは、本当に幸せでした。「メヌエット」の愛らしい調べが、お二人を優しく祝福しているように思えました。

最後に香苗さんの伴奏で別所君が、バッハのレチタティーヴォを独唱しました。少し緊張している面もちでしたが、その演奏からは、お二人の堅い絆と信頼が感じられ、会場の皆さんからは温かい拍手が湧き起こりました。

楽しい時間は瞬間に過ぎてしまいましたが、幸せそうなお二人を囲んで、大勢の皆さんの笑顔が心に残る温かで和やかな一日でした。バッハの森は、学び舎であると同時に、人と人、心と心を結ぶところであることを改めて実感し、そのメンバーでいられることをとても幸せに思いました。直樹さん、香苗さん、いつまでもお幸せに。

(岩淵倫子)

7. 9 結婚を祝う集い準備会 参加者9名。
 7.17 バッハの森で香苗 & 直樹の結婚を祝う集い
 参加者78名。
 7. 21, 28 運営委員会 各参加者4名。
 8. 8 来訪 鈴木欽一氏 (財団法人・茨城教育財団
 理事長)
 8.26 打ち合わせ (オルガン修復作業受け入れ)
 参加者6名。
 8.30-9. 5 オルガン修復作業
 8. 30 テイラー・アンド・ブーディー・オル
 ガン工房技師、ロビー・ローソン氏とクリ
 ス・ノボ氏到着。宮本とも子氏、石田友雄氏
 と打ち合わせ。9. 3-5 河内克彦氏参加。09.
 04 宮本とも子氏試奏。
 9.1, 8, 15, 22, 29 運営委員会 各参加者3名、3名、
 4名、4名、3名。
 9. 9 来訪 柿内和郎氏 (日本ホーリネス教団・
 名誉牧師)・常磐氏、ルツ氏。
 9.17-18 ワークショップ (秋のシーズン開始)
 9. 17 参加者13名、9. 18 参加者16名。
 9.22 打ち合わせ 鈴木靖夫氏、黒沢建一氏 (鈴木
 会計事務所) 参加者4名。
 10. 6 運営委員会 参加者4名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ
 コラール・カンタータ研究
 コラールとカンタータ (JSB)

9. 24 第327回 (三位一体祭)、カンタータ「誉め
 称えられよ、主は」(BWV 129) ; オルガ
 ン: J. S. バッハ「彼に向かい私たちは今、
 聖なるかなと歌う」(BWV 129/5)、當眞
 容子。参加者12名。
 10. 1 三位一体後第4主日のためのカンタータ「私
 はあなたに呼びかけます、主イエス・キリス
 トよ」(BWV 177) ; オルガン: J. S. バッ
 ハ「私は戦いのうちにあり、抵抗していま
 す」、金谷尚美。参加者17名。
 10. 8 第328回、オルガン: 海東俊恵。参加者11名。

学習コース

- コラール研究会 9. 30/7名。
 クラヴィア研究会 9. 30/4名。
 オルガン音楽研究会 9. 30/5名。
 入門講座: 聖書を読む 9. 24/6名、10. 1/10名、
 10. 8/4名。
 バッハの森・クワイア (混声合唱) 9. 24 /11名、
 10. 1/16名、10. 8/9名。
 バッハの森・ハンドベルクワイア 9. 24/5名、10.
 1/6名、10. 8/7名。
 オルガン&ポジティブ練習
 7. 5/3名、7. 6/2名、7. 7/2名、7. 12/2名、
 7. 13/2名、7. 14/1名、7. 19/2名、7. 21/
 1名、7. 26/2名、8. 2/1名、8. 5/1名、8.
 6/1名、8. 9/1名、8. 16/2名、9. 6/2名、
 9. 7/2名、9. 8 /23名、9. 9/2名、9. 13/
 2名、9. 14/2名、9. 15/2名、9. 16/3名、
 9. 20/2名、9. 21/3名、9. 22/2名、9. 24/
 1名、9. 27/4名、9. 28/4名、9. 29/3名、
 9. 30/1名、10. 1 /4名、10. 4/4名、10.
 5/2名、10. 6/3名、10. 7/2名、10. 8/1名。

クリスマス・コンサート

と き: 2011年12月11日 (日) 午後3時
 と ころ: バッハの森記念奏楽堂

H. シュッツ:

「私の魂は主をあがめ」(SWV 426)

G. P. ダ・パレストリーナ:

「キリエ」「グローリア」

ミサ・プレヴィスより

J. S. バッハ:

「降誕祭コラール“高き天よりわれここに
 来たる”によるカノン風変奏曲」(BWV 769)

「わが魂は主をあがめ」(BWV 648)

「私たちはあなたの軍勢に加わり、あなた
 に向かって歌います」(BWV 248/23)

T. メルラ:

「第9旋法の半音階的イントナツィオ」 他

合 唱: バッハの森クワイア (指揮: 比留間恵)

オルガン: 宮本とも子

ハンドベル: バッハの森ハンドベルクワイア

朗 読: 石田友雄